

農推第2341号  
令和8年9月2日

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について

標記について下記のとおり発表したので送付します。

病虫害発生予察注意報第4号

- 1 病虫害名 果樹カメムシ類
- 2 対象作物 果樹全般（みかん・かんきつ、かき、なしなど）
- 3 発生地域 府内全域
- 4 発生量 多い
- 5 注意報発令の根拠
  - （1）果樹カメムシ類については、注意報（令和8年5月22日付）を発出し防除を呼び掛けてきたが、7月上旬から8月中旬にかけてフェロモントラップ調査および予察灯調査における誘殺頭数が増加している。
  - （2）チャバネアオカメムシのフェロモントラップ誘殺頭数が、7月上旬以降平年値を大きく上回り、8月中旬には羽曳野市で平年値のおよそ28.6倍、岸和田市で平年値のおよそ9.8倍、河内長野市で平年のおよそ8.9倍となった（図1）。
  - （3）チャバネアオカメムシの予察灯誘殺頭数は、8月第2半旬（8月6日～10日）には枚方市で平年のおよそ8.5倍、8月第4半旬（8月16日～20日）には羽曳野市で平年のおよそ15倍となった。（図2）
  - （4）大阪管区気象台の近畿地方1か月予報（8月27日発表）では向こう1ヶ月の気温は高く、果樹カメムシ類の果樹園への飛来が増加する恐れがある。

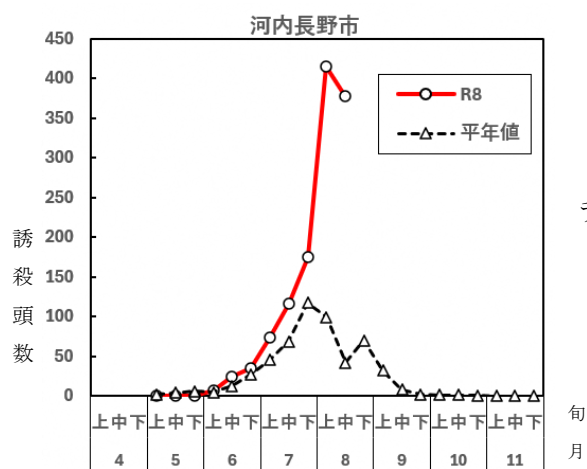
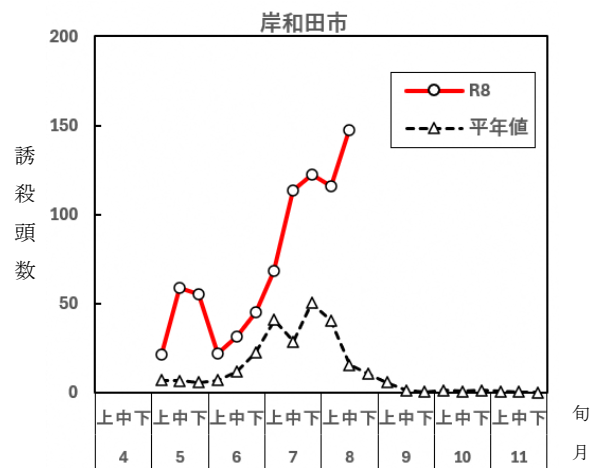
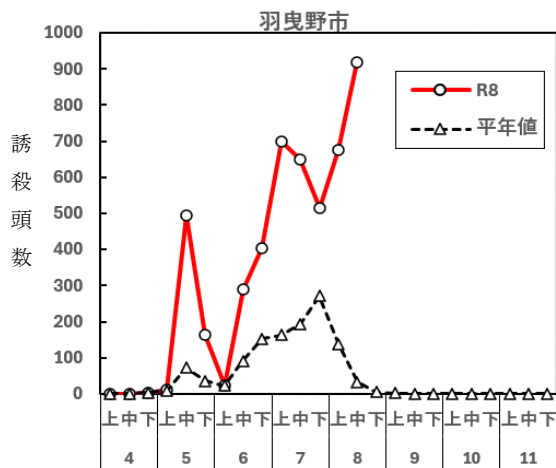


図1 フェロモントラップ調査における  
チャバネアオカメムシの誘殺頭数の推移  
(羽曳野市、岸和田市、河内長野市)

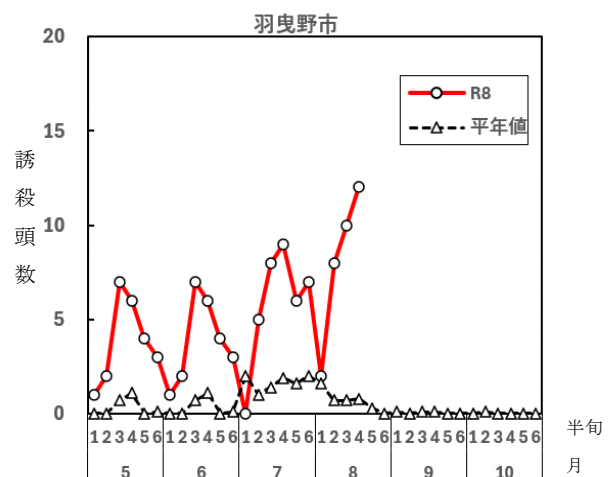
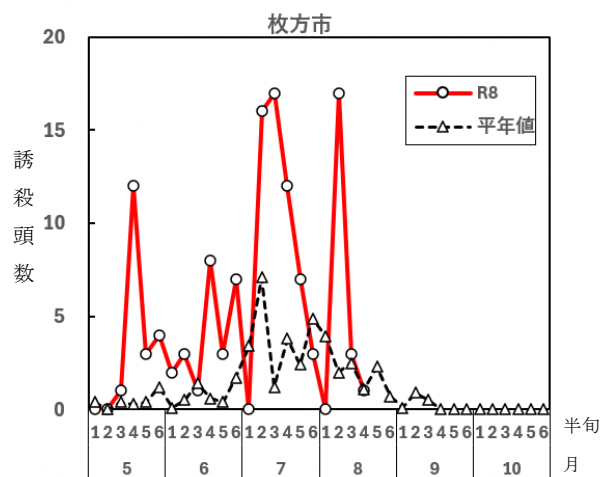


図2 予察灯調査におけるチャバネアオカメムシの誘殺頭数の推移  
(枚方市、羽曳野市)

## 6 生態

- (1) 果樹を加害する果樹カメムシ類には、チャバネアオカメムシ（写真1、2）、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ等がある。大阪府内で確認される果樹カメムシ類の大半はチャバネアオカメムシである。
- (2) 果樹カメムシ類の主なえさは、夏期のスギやヒノキ等の球果である。果樹園でも産卵は行われるが、成虫までは発育しない。スギ等の球果が多い年は夏に個体数が増加し、えさが不足すると秋に果樹園に飛来して果実を吸汁し、落果や奇形果、腐敗果等の被害が増える。
- (3) 9～10月の飛来では、みかん・かんきつ、かき、なしに被害が及ぶことがある。（写真3）
- (4) 袋かけをすると被害を軽減できるが、果実の肥大に伴って果実袋と果実が密着すると、果実袋の上から吸汁されることもある。
- (5) 果樹カメムシ類の果樹園等への飛来は日没後の2～3時間が中心である。



写真1: チャバネアオカメムシ



写真2: 羽曳野市の調査地点で  
誘殺された果樹カメムシ類



写真3: かきの被害  
（果実表面がデコボコになる：丸印が被害箇所）  
※大阪府植物防疫協会 提供

## 7 防除対策

- (1) 果樹カメムシ類の発生量や時期には地域や園地で差があるので、カメムシ類の活動が活発になる夕方に園内を見回り、飛来を確認したら、速やかに薬剤散布を行う。薬剤散布後も園内を確認し、再度飛来を確認した場合は、追加の散布を行う。**薬剤散布に当たっては、収穫前日数や使用回数に十分注意する。**（別添表「カメムシ類の防除薬剤例」参考）
- (2) 果樹カメムシ類に有効な薬剤は、有機リン系薬剤、ピレスロイド系薬剤、ネオニコチノイド系薬剤等である。**多発時には、残効性が比較的高いネオニコチノイド系薬剤、ピレスロイド系薬剤を中心に散布する。**
- (3) ピレスロイド系薬剤は果樹カメムシ類への効果は高いが、天敵類への影響も大きく、連用するとハダニ類やカイガラムシ類の多発を招くことがあるため、なるべく連用を避ける。
- (4) 薬剤散布は夕方か早朝に行うと効果的である。
- (5) チャバネアオカメムシに対しては、黄色灯は忌避効果があるため、設置している園地では早急に点灯する。ただしチャバネアオカメムシ以外には効果がないため、光源近くや園内でクサギカメムシやツヤアオカメムシ（下記カラー技術資料参照）を確認した場合は薬剤散布を行う。
- (6) 果樹園全体に目合い4mm以下のネットを被覆することで侵入を阻止する。

※参考：カラー技術資料「果樹カメムシ類 生態と防除対策

[https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/91954/kajukame\\_osaka.pdf](https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/91954/kajukame_osaka.pdf)



<別添> カメムシ類の防除薬剤例

登録は令和8年8月31日現在

| 作物           | 薬剤名                                | 系統<br>(IRAC)     | 希釈倍数            | 使用時期          | 本剤の使用<br>回数 |
|--------------|------------------------------------|------------------|-----------------|---------------|-------------|
| みかん・<br>かんきつ | アルバリン顆粒水溶剤<br>スタークル顆粒水溶剤<br>(かんきつ) | ネオニコチノイド<br>(4A) | 2000倍           | 収穫前日まで        | 3回以内        |
|              | スミチオン乳剤<br>(みかん)                   | 有機リン(1B)         | 1000倍           | 収穫14日前まで      | 5回以内        |
|              | スミチオン乳剤<br>(かんきつ(除みかん))            | 有機リン(1B)         | 1000倍           | 収穫14日前まで      | 3回以内        |
|              | アディオン乳剤<br>(かんきつ)                  | ピレスロイド(3A)       | 2000倍           | 収穫14日まで       | 6回以内        |
| かき           | アルバリン顆粒水溶剤<br>スタークル顆粒水溶剤           | ネオニコチノイド<br>(4A) | 2000倍           | 収穫前日まで        | 3回以内        |
|              | アドマイヤー顆粒水和剤<br>【劇】                 | ネオニコチノイド<br>(4A) | 5000～<br>10000倍 | 収穫7日前まで<br>※1 | 3回以内        |
|              | アディオン乳剤                            | ピレスロイド(3A)       | 2000～<br>3000倍  | 収穫7日前まで       | 5回以内        |
| なし           | アルバリン顆粒水溶剤<br>スタークル顆粒水溶剤           | ネオニコチノイド<br>(4A) | 2000倍           | 収穫前日まで        | 3回以内        |
|              | ダントツ水溶剤                            | ネオニコチノイド<br>(4A) | 2000～<br>4000倍  | 収穫前日まで        | 3回以内        |
|              | アディオン乳剤                            | ピレスロイド(3A)       | 2000倍           | 収穫前日まで        | 2回以内        |
|              | テッパン液剤                             | ジアミド<br>(28)     | 2000倍           | 収穫前日まで        | 2回以内        |

※1. 露地栽培については発芽期から開花期を除く

最新情報は農林水産省「農薬登録情報提供システム」で確認してください。(<https://pesticide.maff.go.jp/>)